



役員の変更と新役員を選任について

長い間、法人の運営を担っていただきました福田立夫理事と高木玲子監事が11月30日を以て退任されました。ご両名には、法人運営を様々な面から広く支えていただきました。長い間ありがとうございました。また、ご両名の退任により、12月1日より高宮基嘉様が理事に、高木秀剛様が監事に就任されました。

評議員の退任と新評議員の選任について

これまで、評議員を務めて下さっていた高宮基嘉評議員と田中久美子評議員が11月30日を以て退任されました。ご両名には、広く法人運営を支えていただきました。長い間ありがとうございました。また、ご両名の退任により、12月1日に境勉様と熱田辰雄様が評議員に就任されました。12月から、新たな役員、評議員体制で法人を運営して参りますので、よろしくお願い致します。

〈事業所からのお知らせ〉

ワークショップ・フレンド ～10月1日に事業定員を変更しました～

事業所の利用状況等を踏まえ、10月1日に就労移行支援事業と自立訓練（生活訓練）の定員を下記の通り変更しました。尚、定員変更に伴い、現在利用頂いている方の活動や今後ご利用いただく方への影響はありません。

事業名	変更前の定員	変更後の定員
就労移行支援事業	26名	15名
自立訓練（生活訓練）	14名	25名
合計	40名	40名

ワークセンターやまと ～移転、定員変更及び新規事業の開始のお知らせ～

利用者や受注作業が増え、活動スペースが手狭間になってきたことや地域ニーズに合わせて新規事業を開始するために、1月1日に事業所を移転しました。移転先や新定員については、下記の通りとなります。次号以降の広報紙にて移転先の様子や新事業について詳しくお伝えします。

事業名	変更前の定員	変更後の定員
就労移行支援事業	6名	6名
就労継続支援B型事業	14名	18名
自立訓練（生活訓練）※新規	—	6名
合計	20名	30名

移転先：大和市南林間1-1-3(小田急・江ノ島線 南林間駅より徒歩5分)

編集後記

今回の特集記事の取材を行う中で、一人ひとりが様々な形で余暇を楽しまれていることを知ることができました。個人で趣味を見つけた方や、法人や事業所の余暇活動の中で見つけた方など、楽しみを見つけたきっかけは様々ですが、どれもその人がその人らしくあるための大切な時間となっているように感じます。今後も一人ひとりの気持ちを尊重しながら、充実した支援を続けてまいります。(広報委員会)



広報 すずらん

発行日：2020年1月1日（1996年創刊）

発行元：社会福祉法人すずらの会 理事長 松屋 直人 URL: <http://www.suzuran.or.jp>

所在地：〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台7-6-4 TEL: 042-745-8080

編集：広報委員会

2020年

1月発行
第74号

年頭のご挨拶

理事長 松屋 直人

明けましておめでとうございます。旧年中は皆様方から様々なご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、何度か台風の接近があり、相模原市内でも大きな被害が出ましたが、当法人では、幸いなことに看板の転倒による車両の軽微な損傷等のみで、重大な被災を免れました。しかし、初めて一部グループホーム利用者の方に、より安全な他ホームに避難いただくなど、災害時の対応マニュアルが実際に適用され、不備な点等が顕在化しました。今後、気候変動により災害の規模が大きくなること予想されていますので、利用者の皆様の安全確保対策について、検証や改善を行っていく所存です。

当法人も今年で30周年を迎えることとなります。その当時20代であった方々も今は50代となり、評議員会からも、高齢利用者の方への支援について検討するよ

う求められており、評議員や父母会会長にも参加していただき、利用者の皆様の希望に最大限対応可能で、制度に基づいたサービスの構築に向けた検討を開始したところです。

この1月には、ワークセンターやまとが、作業環境整備と、精神障害者の病院等からの社会復帰を支援するための自立訓練（生活訓練）事業を追加する目的で、南林間へ移転いたしました。これからは、昨年の短期入所事業の開始など、サービスの充実に努力して参りたいと思います。

就労移行支援事業の収支改善等様々な課題を克服しながら、職員一丸となってより良い法人の運営に取り組んでいく所存ですので、本年も、当法人の運営等につきまして、引き続きご支援とご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の今年一年のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

特集『学ぶ・働く・暮らす・楽しむ』

日々の暮らしにおいて、趣味や余暇の時間を楽しむことで、より充実した毎日を過ごすことができるのではないのでしょうか。今号は、すずらの会を利用される方々に、“楽しむ”をテーマに、日々を豊かに過ごされている様子取材しました。

余暇の過ごし方を選択して楽しむ

すずらの会では、毎週土曜日、法人が運営する事業を利用されている方々及び就労者の方々を対象に、余暇支援活動を実施しています。現在は、17種のサークルがあり、個々の予定や興味・関心に合わせ、選択して参加することができます。また、余暇支援活動そのものを楽しむだけでなく、活動への参加を通し、新たな趣味の発見に繋がることや、講師、ボランティア、活動場所のスタッフ等、地域の方々と交流する機会を得ることができます。

“グリーンハウス”に通う30代男性は、法人の余暇支援活動と個人の趣味とを、ニーズに合わせて選択し、楽しんでいます。3年ほど前から参加されている、華道サークルについて、ご本人に話を伺いました。

「お母さんから、“華道サークルをやってみたら？”と勧められたことをきっかけに、参加しました。生花を切ることや、きれいに生けることは、とても楽しいです。花の切り方を覚えるのは難しいので、先生やボランティアに教えてもらっています。活動で使った花は、自宅へ持ち帰って飾っています。」



(華道サークルの様子)

華道サークルの他には、個人の趣味として、ご家族と一緒にカーレースやサッカーの試合を観戦し、楽しんでいるそうです。

特集一画面へ続く

特集『学ぶ・働く・暮らす・楽しむ』



(動物園で撮影した写真)

移動支援（ガイドヘルプ）利用から地域活動に繋がる

地域生活支援事業の移動支援（ガイドヘルプ）を実施している“あいあいS”では、利用者のニーズに合わせ、様々な場所に外出することを支援しています。

もともと、外出することが好きだった20代男性は、移動支援を利用して動物園へ行ったことをきっかけに、一人でも、上野動物園や多摩動物公園、ズーラシアへ行くようになったそうです。ご本人に、動物園での楽しみ方や、今後の目標を伺いました。

「動物を観賞することの他にも、園内の装飾物を写真に収めるのが楽しいです。現地までの電車の乗り換え方などは、事前に確認して覚えます。今後は、移動距離を伸ばし、千葉県牧場に行き、乳しぼりをしたいです。出来れば、福島県へ行って、色々な果物を食べたいけれど、距離が遠いので今は難しいと思います。」

移動支援では、外出先を利用者と一緒に決めた上で、現地までの交通機関の利用の仕方や、当日のお金の使い方等についても支援をします。様々な場所への外出を経験することで、選択の幅が広がり、より充実した地域活動に繋がります。



(ポーセリンアート体験の様子と作品)

事業所の余暇活動を継続して楽しむ

“ワークショップ・SUN”に通う20代女性は、事業所の余暇活動であるポーセリンアート体験に、活動開始当初から参加しており、現在も続けています。

「マグカップなどに、転写シール（絵柄）を貼るところが楽しくて、上手に出来るので、自分に合っている活動だと

思います。時々、先生の指導で、手直しをしてもらいます。先生は、優しく教えてくれます。今後は、ガラスの皿も作ってみたいです。」

得意な活動に取り組むことで、参加の継続や新しい作品に挑戦する意欲の発現に繋がっています。また、普段から行き慣れている事業所で活動することが、ご本人の安心感にも繋がっている様子でした。

ポーセリンアートの講師は、地域の方に依頼をしています。講師からもお話を伺いました。

『みなさんのデザインの発想が素晴らしくて、迷わずに、思い切りよく楽しんでやっています。毎回、自分も参考になります。これからも皆さんと楽しめたら嬉しいです。』参加者が活動を楽しむことで、講師にも喜んで頂いており、地域交流の一翼を担う活動となっています。

ここまでは、充実した地域生活を送る中で、法人や各事業所が実施する活動を楽しまれている方々をご紹介しました。ここからは、個々の趣味や楽しみを通じ、充実した地域生活を送られている方々をご紹介します。

同じ趣味を持つコミュニティに参加する

現在、“フィルイン”へ通う30代男性は、20代の頃にダンススクールに通い始めて以来、個人の趣味としてダンスを続け、現在も月に3回ほどダンススクールに通われています。

「ダンスの魅力は、自分の思いのままに、自由に身体を動かせることです。スクールのメンバーと一緒に、振付を合わせて踊ることが楽しいです。毎年、ダンスの発表会に向けて、新しい振付を覚えることに挑戦していますが、振付のパターンが多く、完璧に覚えるには練習する時間がたくさん必要です。」

ご本人は現在、事業所のプログラムとして実施している、高齢者施設でのボランティア活動に参加しています。大勢の方々の前でダンスを披露するなど、日中活動においても、ご本人の趣味を活かして過ごしています。



(ダンスを披露する様子)



(作品展で作品を披露する様子)

楽しみが社会活動へ発展する

“ワークセンターやまと”に通う50代男性は、長年続けられている切り絵の趣味が発展し、メディア出演や地域貢献などの社会活動に繋がっています。ご本人の特性に配慮し、お母様に取材を行いました。

「小学校低学年の時に、切り絵の展覧会に行き、興味を持ったため、独学で始めました。もう、40年以上続けています。休日でも平日も、時間に余裕がある時は、切り絵をします。本人は、紙の色や形、ハサミやカッターを使うことが好きなのではないでしょうか。これまで、ラジオやテレビ、地方紙などの取材に応じることも多々ありました。現在は、大和市子供会連絡協議会や大和市内の小中学校から依頼を受け、作品を披露しています。今後も、継続出来たら良いです。」

ご本人の作品には、動物や風景、模様など、様々なテーマがあり、どの作品も細部まで丁寧に表現されています。

地域の身近な場所で楽しむ

“ワークショップ・フレンド”に通う10代女性は、去年の6月、雨が降った日に、ふと“雨の日に外出してみたい”と思い、相模大野駅のマクドナルドやショッピングセンターへ行きました。その時、一人で行動するのが楽しいと感じたそうです。

「一人だと、ゆっくり過ごせるのが魅力です。衣類や入浴剤などを自分のペースで選んで、買うことが出来ます。今は、買い物や食事をしに、外出をすることが趣味です。今後は、渋谷に行ってみたいです。初めて行く場所なので、最初は一人では無く、お母さんと一緒に行きたいです。」

何気ない思い付きが、趣味を発見するきっかけになったそうです。飲食店やショッピングセンター、駅、公園など、地域にある身近な場所を利用することも、楽しむことに繋がります。取材後には、ご本人が実際に買った入浴剤を紹介してくれました。



(購入した入浴剤を紹介)

楽しむことが自信に繋がる

発達支援部門“ばれっと”に通う中学生で、習い事として、長年、エレクトーンの演奏を続けている方に、お話を伺いました。

「幼稚園生の時から現在まで、8年間エレクトーンの演奏を続けています。特に、発表会での演奏が楽しいです。“ゆず”の曲など、好きな曲を弾けることや、8~10人くらいのグループで演奏するのが、発表会の楽しいところです。難しい曲の練習は、ときどき嫌になることもあるけれど、頑張っています。エレクトーンの他には、ゲームをしている時が楽しいです。特に、“星のカービィ”のゲームが好きで、難しくても諦めずに挑戦し、全部クリアしています。」

お母様にもお話を伺ったところ、ご本人がエレクトーンを始めたきっかけは、テレビ番組で、“楽器の演奏が脳の発達に良い”と聞いたことだそうです。これまで、エレクトーンを続けてきた経験が、ご本人の、音楽そのものに対する自信へと繋がっている様子で、中学校の音楽の授業においても、力を発揮しているとのことでした。



(発表会での演奏)

すずらん会の会が提供するサークル活動や各事業所の行事、余暇活動等は、活動そのものを楽しんでもらうことはもちろんですが、活動を通して日々の生活を充実させることや、得意領域の発見、動機づけ、その方の可能性を広げ、暮らしを豊かにすることを期待して実施しています。また、活動の中で、他者との交流や公共のルール・マナーを学び、実際に経験してもらい、より充実した地域生活を実現することも目的としています。

今回、取材をさせて頂いた中で、何かを楽しむことが、リフレッシュや息抜きになり、生きがいや意欲の維持・向上等に繋がっていることがうかがえました。また、みなさんが自分の趣味や楽しみについて話をされる時、明るく笑顔で話されていたことが印象的でした。

今後は、その気持ちを発信できる機会を設け、一人ひとりが“楽しい”と感じる気持ちを尊重しながら、楽しみを活かした目標の設定や、前向きに課題に取り組めるような支援を実践して参ります。

(編集：広報委員会)